

のれんのあるまちづくり推進事業

自治体情報

山梨県 韮崎市

人口 / 31,155人

標準財政規模 / 8,359百万円

担当課 商工観光課

電話番号 代表 0551-22-1111

実施主体 韮崎市・韮崎市商工会

関連ホームページ

事業期間 平成 22 年度から

関係施策分類 ④、⑥

予算関連データ

総事業費：10,087千円

名称	所管	金額(千円)
地域活性化・きめ細かな臨時交付金(H22 ※H23へ繰越明許)	内閣府	7,000
一般財源(H22) ※H23へ繰越明許	-	493
一般財源(H23)	-	1,313
一般財源(H24)	-	1,281

施策のポイント

他の地方都市と同様に、韮崎市でも郊外への大型店の出店等の影響によるまちなか商店街の空洞化が課題となっている。このため、かつて甲州街道の宿場町（韮崎宿）として栄えた歴史を背景として、当時の雰囲気醸し出すことで、商店街にかつての賑わいを取りもどす取り組みを行っている。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

韮崎市は他の地方都市と同様、大型店の郊外への出店等を原因とするまちなか商店街の空洞化が、昨今の大きな課題となっていることから、まちなかに人を呼び込むことで、元気で活気あふれる街づくりを推進している。

こうしたなか、甲州街道の宿場町として栄えたまちなかの特色を活かした取り組みとして、屋号や商店のイメージをデザインした個性あふれるのれんを店先に掲出することで、上質で新しい魅力の創造と賑わいのあるまちなかを創出するのれんのある街づくりに取り組んでいる。

2. 取組の具体的内容

のれんを製作するにあたって最も重要視したことは、店主自らがデザインを行うという事だった。

当初は統一したデザインののれんを軒先に掲出することでまちなかに一体感をだすことができるのではとの意見も多かった。

しかしながら、のれんは店の顔であり、店主や家族の想いと心意気を表現すべきものであることから、自らがのれんのデザインに関わることで、のれんに対して誇りを持つようになると同時に、お客や観光客との間で、のれんを通じた会話が進み、自然と活気あふれるまちとなると考えたからである。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

中心市街地内の商店等約280店舗の軒先に、個性的なのれんを掲出することを数値目標に掲げた。

4. 現在までの実績・成果

現在では、まちなか商店街の160店舗の軒先に店主の心意気が表現されているのれんが掲げられるに至った。

当初掲げた目標には届かなかったが、これは業種等がのれんの掲出に不向きであるといったことや、間口等の店舗形状によってはのれんの設置が困難な店舗等もあったことが原因といえる。

しかしながら、現代風のデザインや色にアレンジされた個性あふれるのれんが掲出されたことで、現代の街並みや家並みに、甲州街道の宿場町として栄えた古き良き街並みのノスタルジーさを演出することができたといえる。

実際に地元の方々や観光客からも、空き店舗が目立っていた街並みに、華やかさや賑わいがうまれ、まちなかを歩くのが楽しくなったとの声も多く寄せられたほか、のれんを軒先に掲げた商店主からも、これまでは卸売りのイメージが強かったようだが、のれんを出したことで一般のお客が来店してくれるようになったとの声も多く聞かれた。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

事業に取り組むにあたっては、地元商店会の代表者や商工会、個店経営者からなる推進会議やワークショップを組織し、官民協働による作業を推進した。

こうすることで、行政の一方的な押し付けではなく、個店や商店会などの自主性を出すことができた。

6. 今後の課題と展開

本事業は、単なるのれんの掲出事業ではなく、個店やまちを元気にすることが最終的な目標であることから、今後、こののれんをひとつのツールとして、さらなる官民協働のもと、商店会や個店の創意工夫によるものづくりやソフト事業の構築を進めていく必要がある。

確かに、のれんを掲出した効果により、まちなかに観光客等が多く見られるようになったが、この方々をいかに店の中に誘引し、商店を活性化させ、街に賑わいを取り戻すかが課題である。

今後も官民協働のワークショップ等で検討を重ね、のれんのある街づくりを盛り上げていくことが重要である。